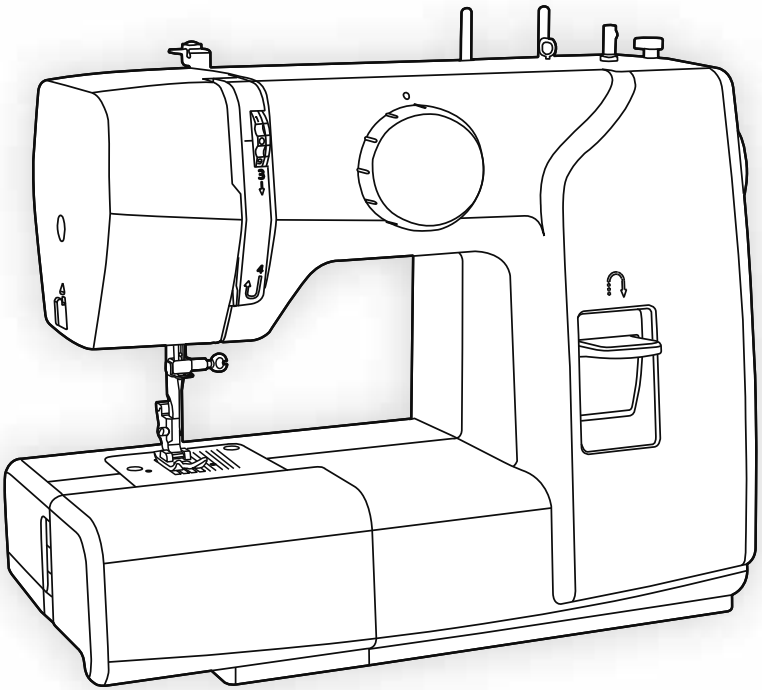
SINGER®

Instruction Manual

使用の手びき

型式:SN10C



このミシンを安全にお使いいただくため、この
「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用ください。

◆ はじめに

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

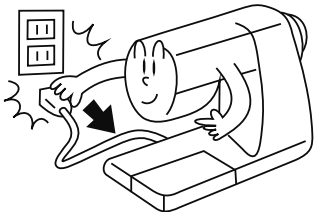
◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

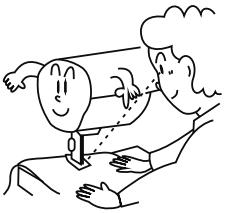
⚠警告：感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき。
   - ・ミシンを使用したあと。
   - ・ミシン使用中に停電したとき。
   - ・接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
   - ・雷が鳴りはじめたとき。

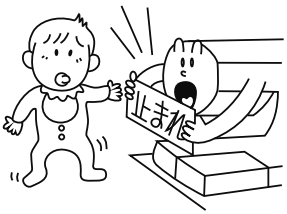


⚠注意：感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。



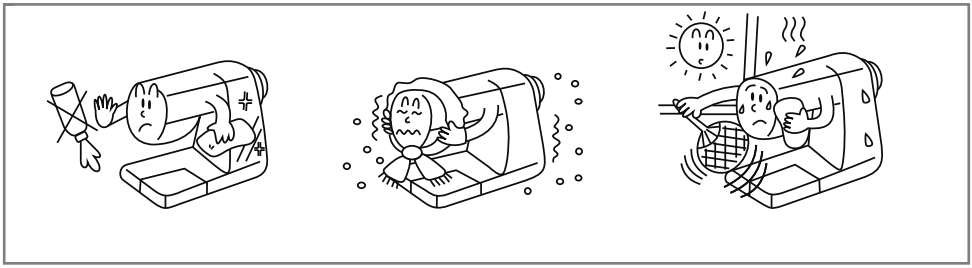
◆ 安全にご使用いただくために



1. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
2. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
3. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
   - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
   - ・原則として上糸、下糸をセットするとき。
4. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
   - ・正常に動作しないとき。
   - ・落下などにより破損したとき。
   - ・水に濡れたとき。
   - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - ・異常な臭い、音がするとき。
5. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



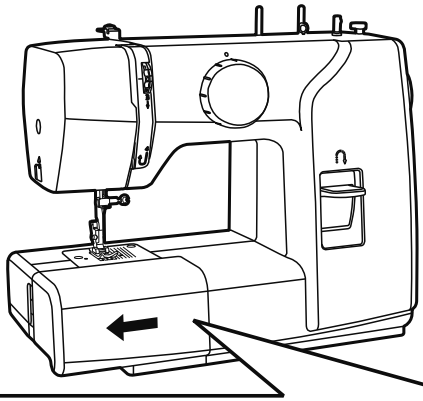
◆ 仕様

型　　式	SN10C
定格電圧	100V
消費電力	70W
周　波　数	50Hz/60Hz
ランプ定格	LED
寸　　法	幅：356mm x 奥行：184mm x 高さ：293mm
重　　量	約 4.45kg

◆ もくじ

はじめに....1
安全にご使用いただくために....1-2
ミシンの取り扱い....3
仕様....3
もくじ....4
付属品....5
補助テーブル....6
各部の名称....7
電源のつなぎ方と始動・停止....8
下糸の巻き方....9
ボビンとボビンケースのセット方法....10-11
上糸のかけ方....12-13
下糸の引き上げ方....14
針の取り外し方と取り付け方....15
模様の選び方....16
上糸調子の合わせ方....17
布地の裏側がタオル地のようになるのは....17
押えの取り外し方と取り付け方....18
押えホルダーの取り外し方と取り付け方....18
押え上げレバー....19
送りカバープレート....19
布地に適した針と糸の選び方....20
直線ぬい....21
返しぬい....22
ぬい方向のかえ方....22
厚地のぬい始め....22
段ぬい....22
飾りぬい....23
ジグザグぬい、裁ち目かがり....24
まつりぬい（ブラインドステッチ）....24-25
ボタンホールのぬい方....26-27
ファスナー付け....28-29
ミシンのお手入れ....30
ＬＥＤライトの交換....30
困ったときには....31
修理サービス要領....32

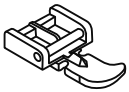
◆ 付属品



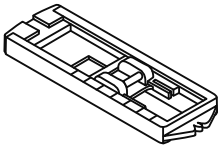
必ず下記付属品が入っていることを確認してください。

下記付属品の一部は、補助テーブルの中に入っています。（補助テーブルの取り外し方は 6 ページを参照してください。）

ジグザグ押え
（購入時はミシン本体にセットされています）

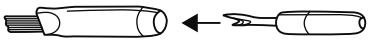


ファスナー押え



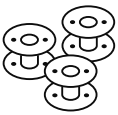
ボタンホール押え

三角ドライバー

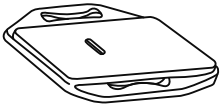


ブラシ／リッパー

針パック

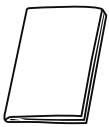


ボビン

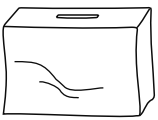


送りカバープレート

糸コマ座



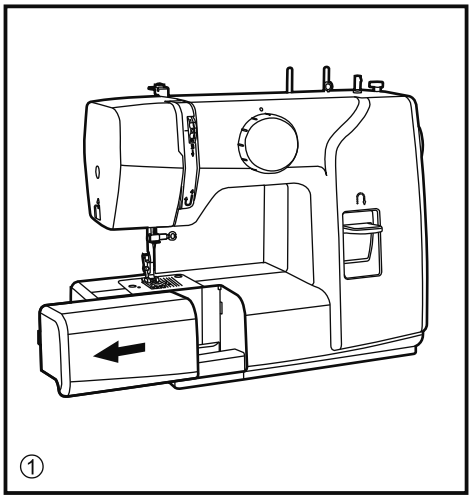
使用の手びき



ソフトカバー

フットコントローラー
（電源コードー体式）

◆ 補助テーブル

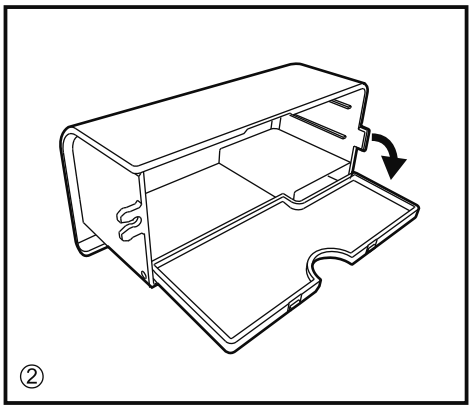


①

① 補助テーブルを外すと、袖口や裾、袋物をぬうときに利用できる、フリーアームになります。

補助テーブルの下側に手をかけ、左に引いて外します。

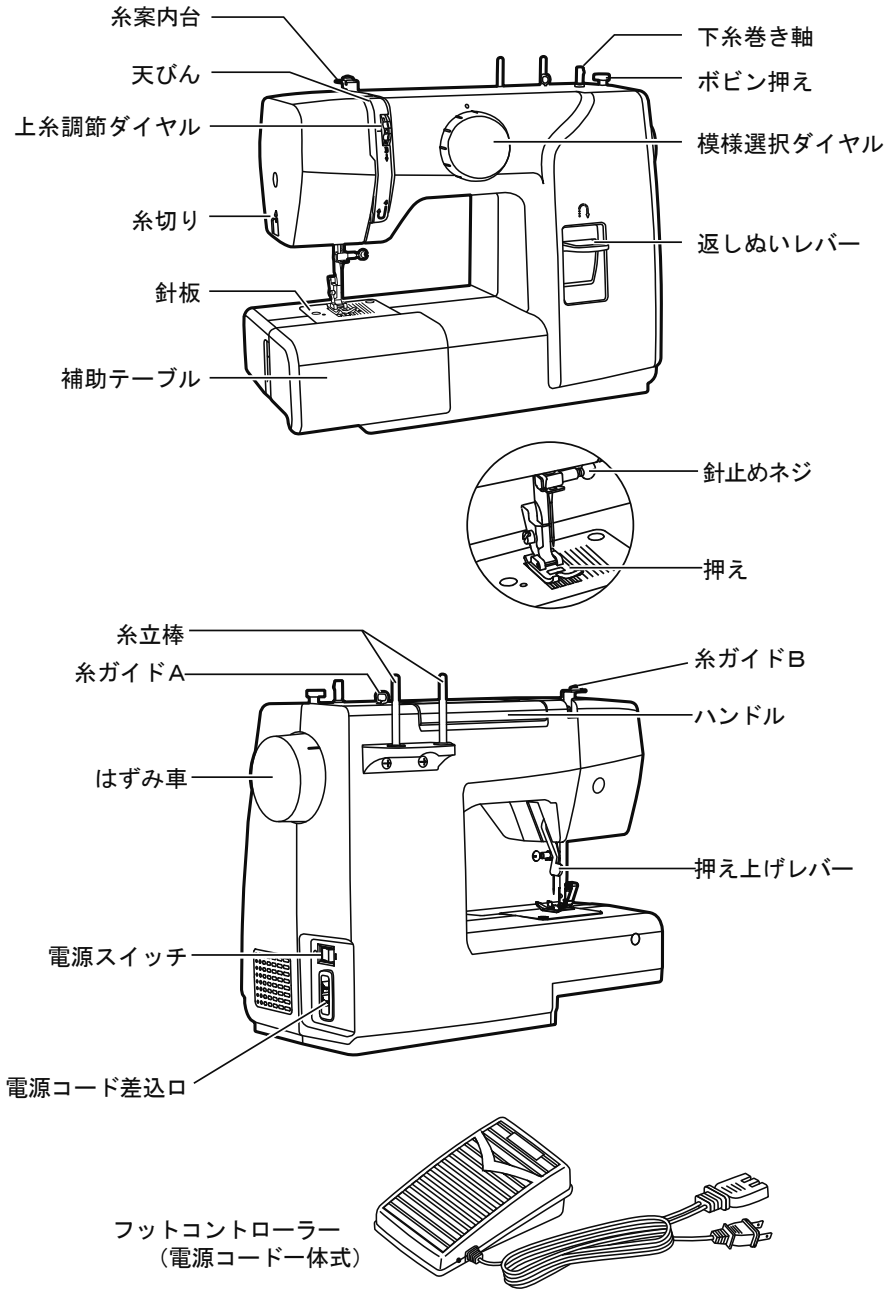
取り付けるときは、フリーアームに沿わせ、突き当たるまで押し込んで取り付けます。



②

② 補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。カバーは手前に開きます。

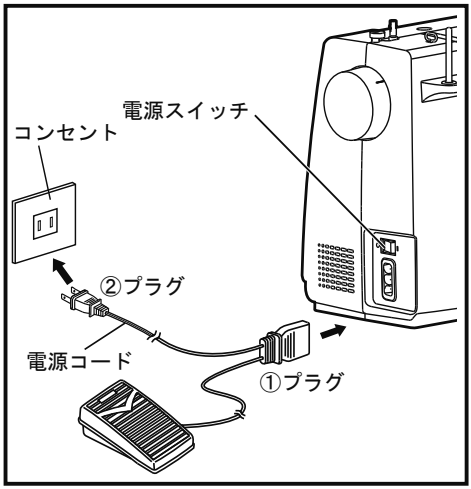
◆ 各部の名称


糸案内台
天びん
上糸調節ダイヤル
糸切り
針板
補助テーブル
下糸巻き軸
ボビン押え
模様選択ダイヤル
返しぬいレバー
針止めネジ
押え
糸立棒
糸ガイドA
はずみ車
電源スイッチ
電源コード差込口
糸ガイドB
ハンドル
押え上げレバー
フットコントローラー
（電源コード一体式）

◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

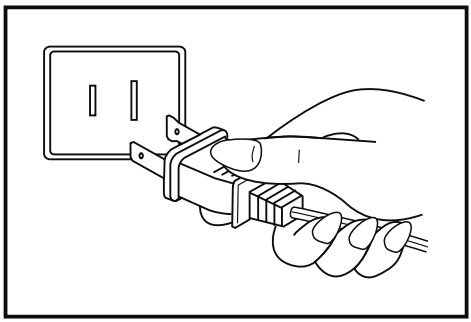
⚠警告：感電、火災の恐れがあります

電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



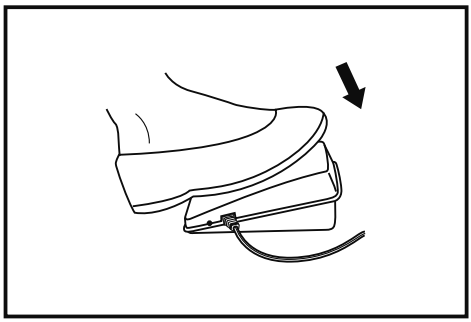
電源コードのプラグ①をミシン本体に差し込み、プラグ②を家庭用電源（100V 50/60Hz）コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れると照明ランプが点灯します。



ご注意

- 使用中に糸が絡んだり、ミシンが止まった場合は電源スイッチを切ってください。
- ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源プラグを抜いてください。
- コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。



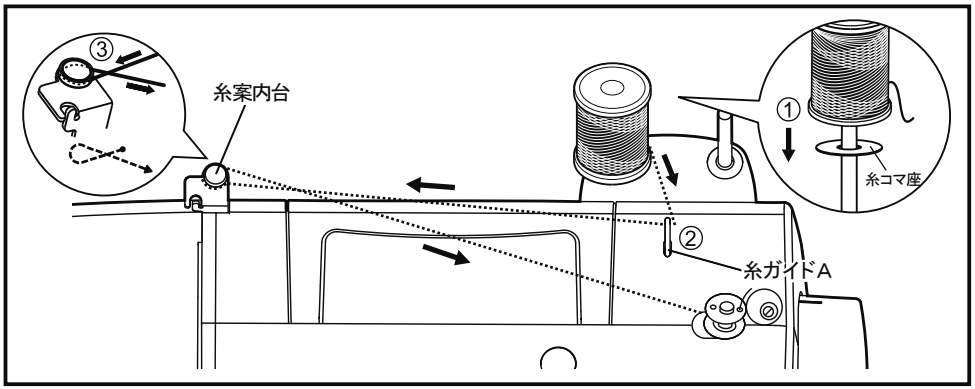
ミシンのスタート・ストップはフットコントローラーで行います。

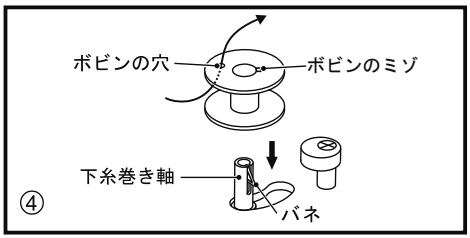
フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

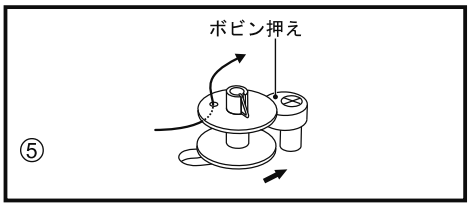
浅く踏む…おそい

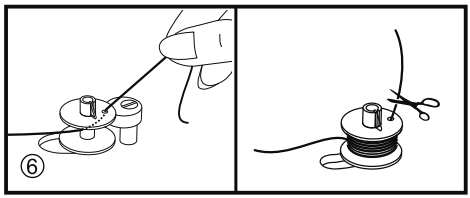
深く踏む…はやい

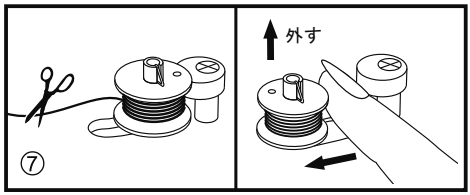
◆ 下糸の巻き方











① 糸立棒に糸コマ座を差し込んでから、糸コマを糸立棒に差します。

糸コマに切りミゾがあるときは、それを下側にしてください。

② 糸ガイドAに手前から後ろへ糸をかけます。

③ 糸を引き出し、糸案内台の皿の間に糸がしっかり入るように手前から右回りに糸をかけます。

④ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネを合わせて、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。

⑤ 下糸巻き軸にセットしたボビンを、右方向にスライドさせ、ボビン押えに押し付けます。

⑥ ボビンに通した糸はしを軽く持ったまま、フットコントローラーを軽く踏んで巻き始めます。

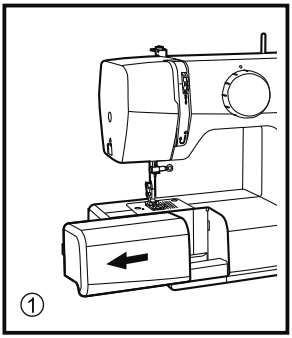
いったん止め、ボビンの上の余分な糸を切り、もう一度巻き始めます。

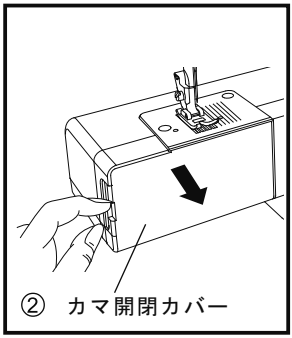
⑦ 巻き終わるとボビンの回転がゆるやかになります。ミシンを止め、巻き終わりの糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

◆ ボビンとボビンケースのセット方法

⚠注意：ケガ防止のために

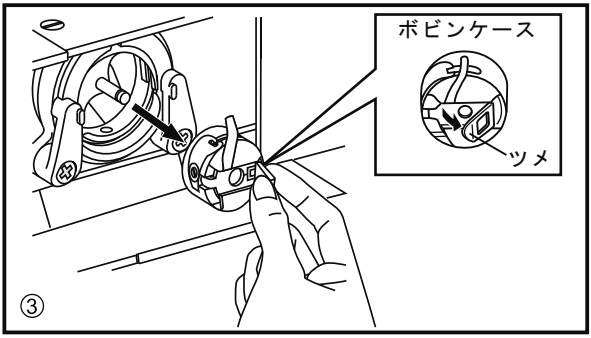
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



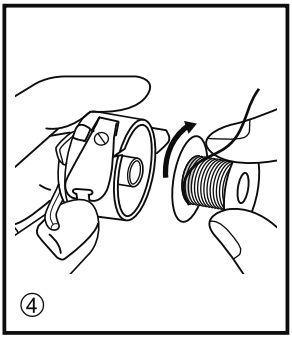


① 補助テーブルの左はしを持って、矢印方向に引き、補助テーブルを外します。

② カマ開閉カバーを開きます。



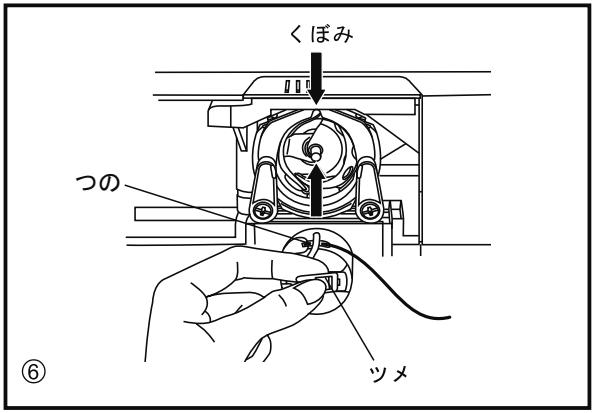
③ ボビンケースを取り外すときは、ツメの部分を手前に引っ張り、立ててから持ち、手前に引くようにします。



④ ボビンケースを片手で持ち、糸が時計回り（矢印の方向）になるようにボビンをセットします。

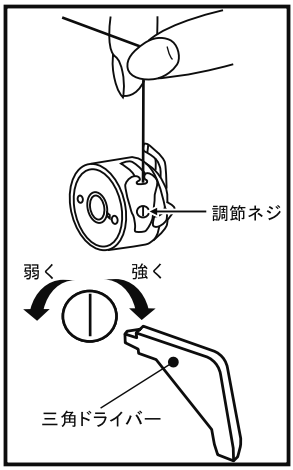
⑤ 糸はしを持ち、切りミゾから糸調子バネの下を通して穴から糸を 10 ㎝ほど引き出します。糸を引いたとき、ボビンが時計回りに動くかを確認します。

◆ ボビンとボビンケースのセット方法



⑥ ボビンケースのツメの部分を持ち、カマの中にセットします。

ボビンケースのつのの部分が、外ガマの上にあるくぼみに、はまるようにしてください。



下糸の調節の仕方

糸調子は「下糸調子を基準にして、上糸の調子をとる」のが原則です。

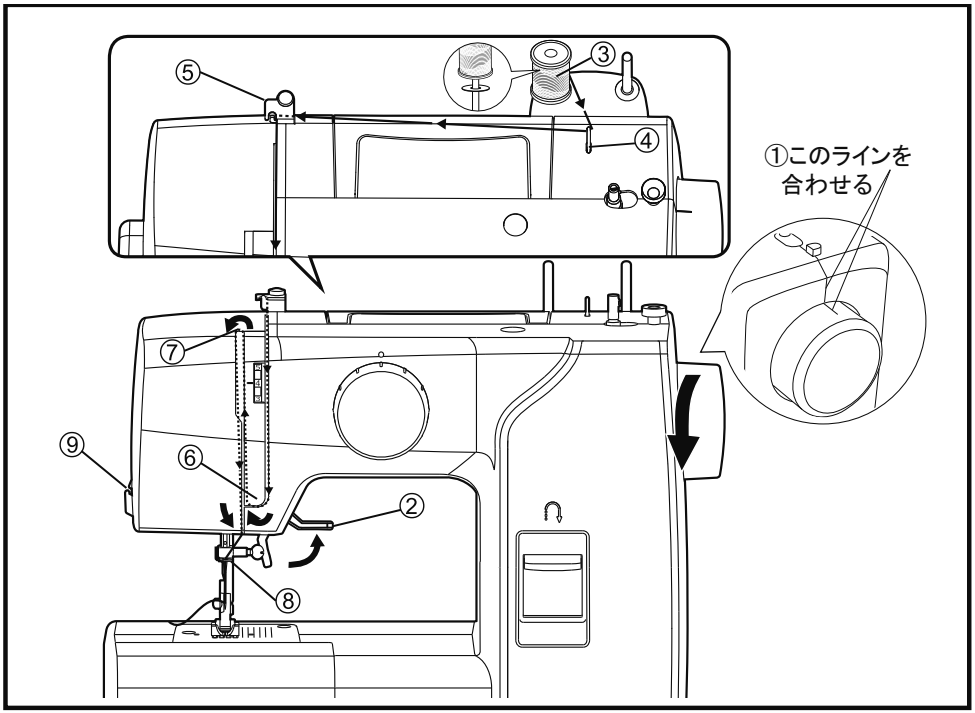
下糸の調節は、左図のようにボビンケースの穴から出る糸はしを持ち、下方向に振り下げた時に、ちょっと動いて止まる（目安は 2 ～ 3cm 下がる）程度を基本とします。

試しぬいをして下糸が強い場合は、調節ネジを、三角ドライバーで左に回して糸調子を弱くし、下糸が弱い場合は右に回して強くします。

◆ 上糸のかけ方

⚠注意：ケガ防止のために

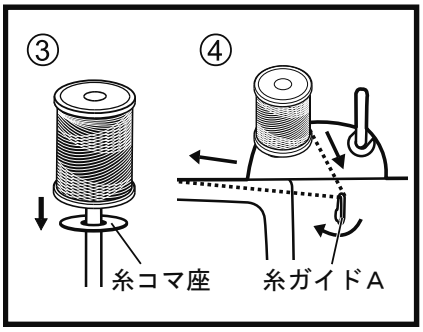
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



上糸のかけ方

① はずみ車を手前に回して、針上止点ラインを合わせます。

② 押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えは必ず上げた状態にします。（押えを下げた状態で糸かけをした場合、ボビンケースに糸が絡んだり、上糸調子が全くきかなくなります。）

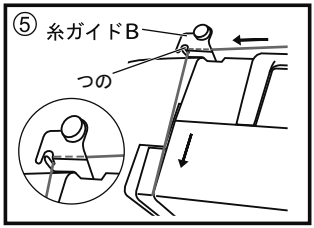


③ 糸立棒に糸コマ座を差し込んでから、糸コマを糸立棒に差します。

糸コマに切りミゾがあるときは、それを下側にしてください。

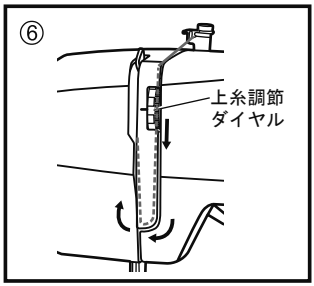
④ 糸ガイドAに手前から糸を通します。

◆ 上糸のかけ方

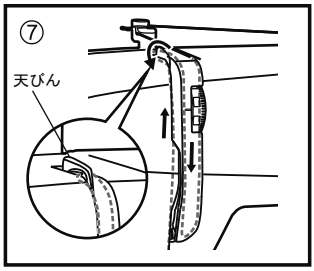


⑤ 糸を左に引いていき、糸ガイドBに後ろから、下を通って、つのの右のくぼみに糸をかけ、手前に引きます。

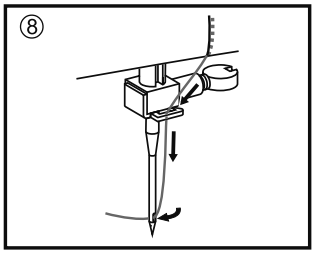
※下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。



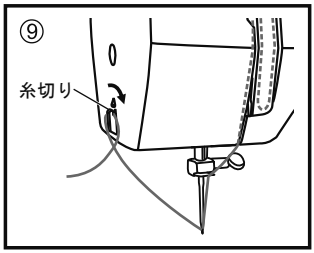
⑥ 両手で糸を持ち、ピンと張った状態で、糸をまっすぐ手前に引き、上糸調節ダイヤルの横のミゾに、糸をギュッと通した後、ミゾに沿って引き下ろします。矢印に沿って、右から左に糸を上に引き上げていきます。



⑦ 天びんの右側から後ろへ糸を回し、左手前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。その後、ミゾに沿って下に引いていきます。

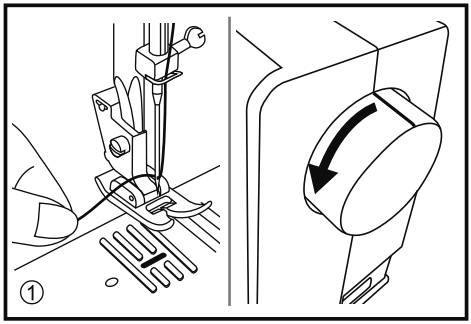


⑧ 針棒糸かけに右奥から糸をかけ、針穴に前から後ろへ糸を通します。



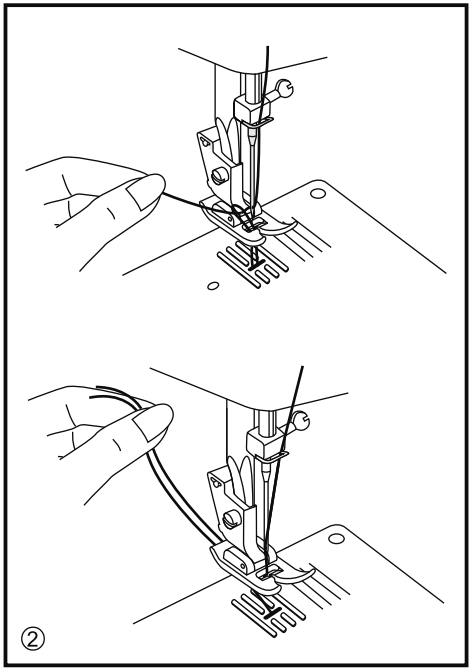
⑨ 余分な糸は糸切りでカットします。

◆ 下糸の引き上げ方



下糸の引き上げ方

① 上糸のはしを軽く持ったまま、はずみ車を手前に回して針をいったん下げ、再び上げます。



② 上糸を軽く引くと、下糸が輪になって引き出されます。

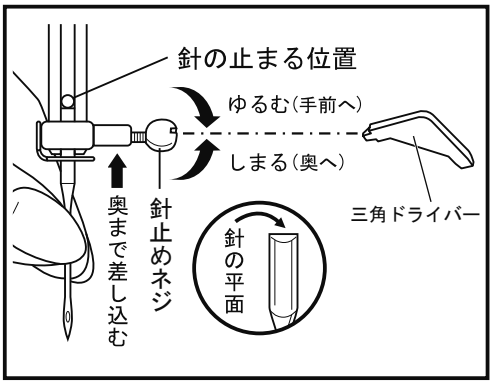
上下の糸はしをそろえて、押えの下を通し、押えの後ろ側に 10 ㎝程度出します。

◆ 針の取り外し方と取り付け方

⚠注意：ケガ防止のために

- **曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。**
- **必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**
- **針は必ず家庭用ミシン針（HA×1）をご使用ください。**

針は、布地や糸に合わせて選びます。20 ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照してください。



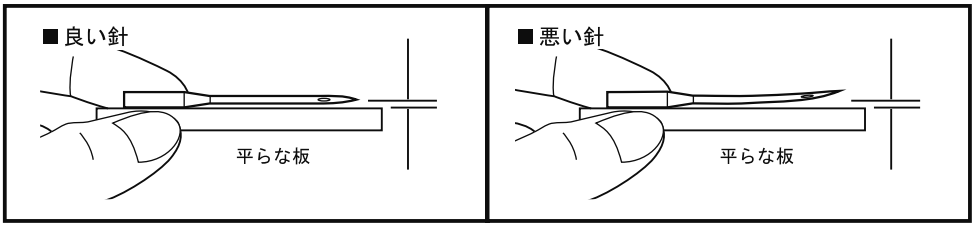
電源を切ります。

押え上げレバーを下に下げます。

針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面（平らな面）を向こう側（針棒側）に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締めつけます。

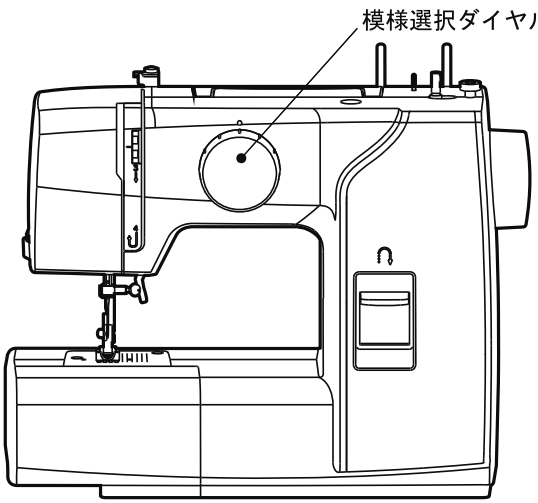
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、針が反っていないか確かめてください。



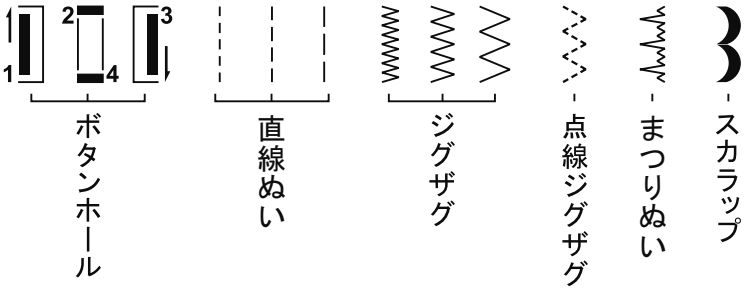
◆ 模様の選び方

⚠注意：ケガ防止のために

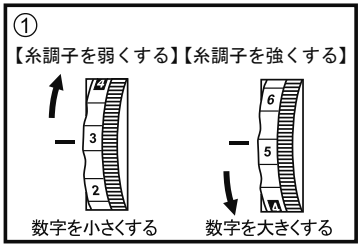
模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を最上点まで上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



模様選択ダイヤルを回して、指示マークにぬいたい模様を合わせて模様を選択して下さい。



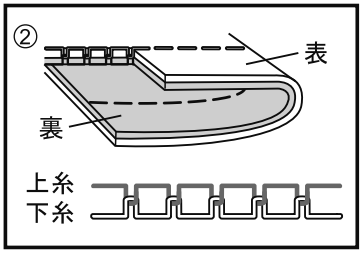
◆ 上糸調子の合わせ方



① 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルは「4」が標準です。

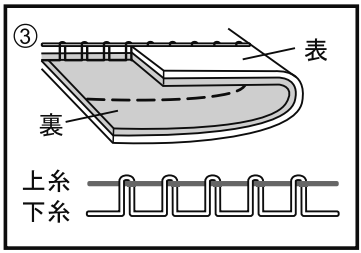
糸調子は、上糸調子ダイヤルを回し調整します。



② 正しく調節されている場合

左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。

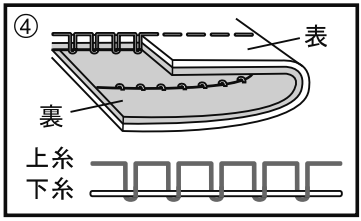
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、上糸調節ダイヤルを回して、糸調子を調節してください。



③ 上糸が強い場合

布の表の糸が 1 本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

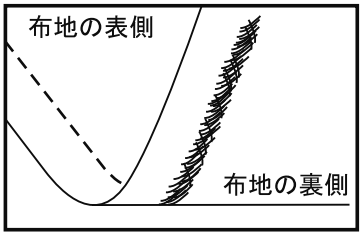
または、上糸の糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルの数字を小さくして、糸調子を弱くしてください。



④ 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が 1 本になっているときは、上糸の糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルの数字を大きくして、糸調子を強くしてください。

◆ 布地の裏側がタオル地のようになるのは

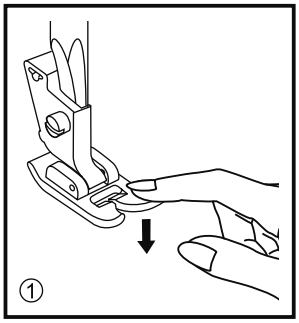


左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは、上糸の糸調子が弱いか、上糸のかけ方が間違っています。

または、押え上げレバーを下げたまま糸かけをするとこの状態になります。

12, 13 ページをご覧の上、正しく糸をかけ直してください。

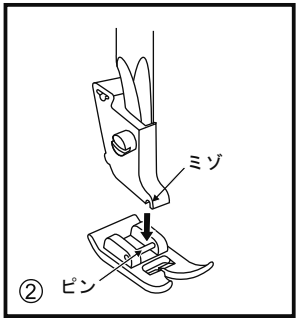
◆ 押えの取り外し方と取り付け方



① 押えの取り外し方

押え上げレバーを上げて、押えを上げます。

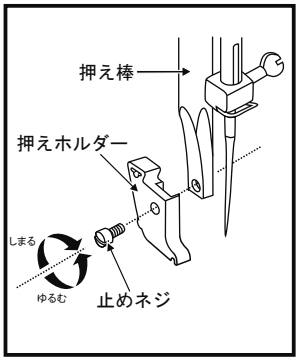
押えを下に押すと押えは外れます。



② 押えの取り付け方

押えのピンが、押えホルダーのミゾの真下にくるようにして、押え上げレバーを下げます。

◆ 押えホルダーの取り外し方と取り付け方



・ 押えホルダーの取り外し方

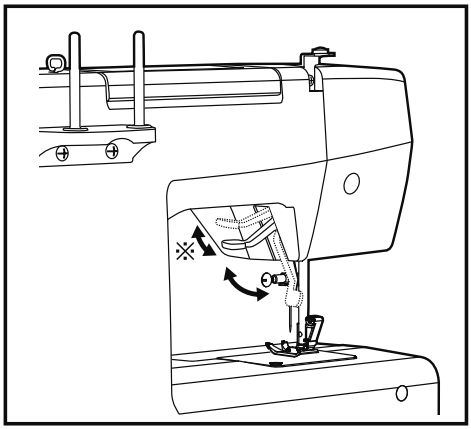
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えを取り外し、三角ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。

・ 押えホルダーの取り付け方

押えホルダーのネジ穴と押え棒のネジ穴の高さを合わせ、止めネジを取り付けます。止めネジは三角ドライバーで手前に回して締めつけます。

※押えの交換は、押えホルダーは取り付けたまま行います。取り外す必要はありません。

◆ 押え上げレバー



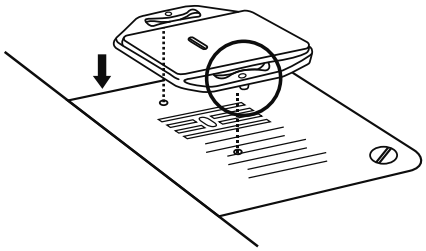
布を押えたり、布を引き出すときに、押え上げレバーを使って、押えを上下させます。

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上げることができます。

※この時レバーは固定されません。

手を放すと元の位置に戻ります。

◆ 送りカバープレート



プレートの突起を、針板の専用穴に取り付けます。

フリーハンドで刺しゅうぬいなどを行う際には、送り歯に送りカバープレートを取り付けます。

送りカバープレートを取り付けている間は、送り歯が効かなくなり、布を送りませんので、布を自由に動かせます。

イラストを参照して送りカバープレートをセットしてください。

通常のソーイングでは送りカバープレートは、必ず取り外してください。

◆ 布地に適した針と糸の選び方

布地の種類		針の番号	糸の種類、 太さ
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	9-11 番	スパン系糸 90 番 （ポリエステル） 綿 80 番 -100 番 絹 60 番 -80 番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄地コーデュロイ、別珍、一般服地など。	11-14 番	スパン系糸 60 番 （ポリエステル） 綿 50 番 -80 番 絹 50 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	14-16 番	スパン系糸 60 番 （ポリエステル） 綿 40 番 -50 番 絹 50 番

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。
この表を目安に布地に合った針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
・購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

・ 薄い布地やニット布地の場合に生地がくい込んだり、ぬい縮みが起きる場合は、薄い紙を布の下に敷いてぬい、ぬい終わった後取り除いてください。または、市販の接着芯をあてて強化すると、きれいにぬうことができます。

※ 綿や絹糸は、経年劣化により切れやすくなります。（目安として製造より 2 年）
なるべく新しいものをお使いください。
※ナイロン透明糸およびメタリック糸は、使用しないでください。

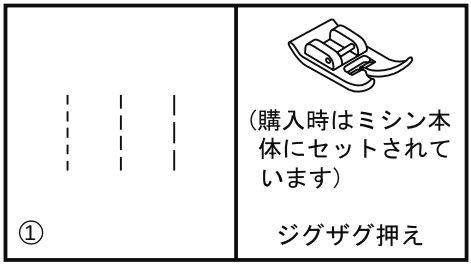
＜オススメ＞
スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、
また長持ちします。

◆ 直線ぬい

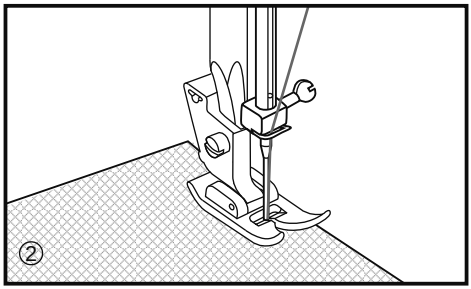
⚠注意：ケガ防止のために

●針先には十分注意してください。

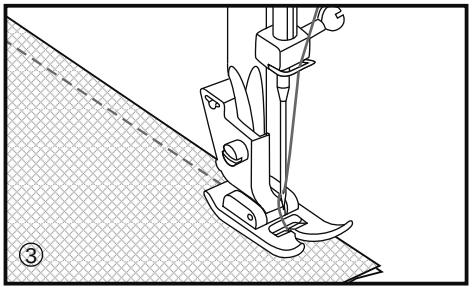
●布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



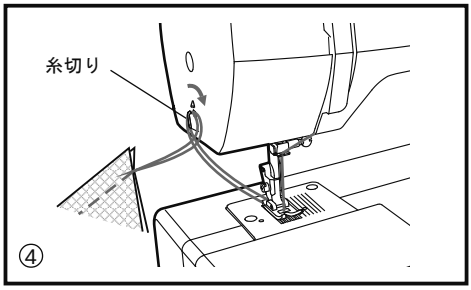
① ジグザグ押えをセットします。
模様選択ダイヤルを直線３種から選びます。ぬい目の長さが違います。
上糸調子は、３～５の間に合わせます。



② ぬい始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから押えを下ろしてください。
フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。

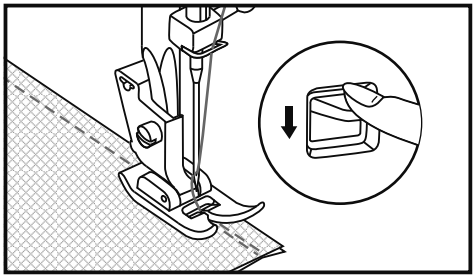


③ ぬい終わったらフットコントローラーから足を放して、ストップします。
はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。



④ 押えを上げ、布地を後ろに引き出します。
糸切りに糸をかけて引くと糸が切れます。

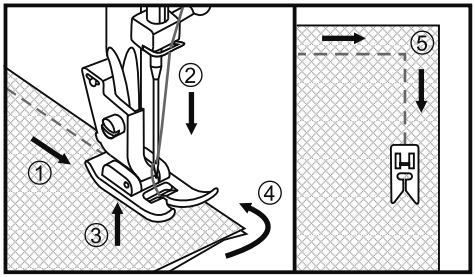
◆ 返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。レバーを放すと前進します。

ぬい始めとぬい終わりに３～５針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。

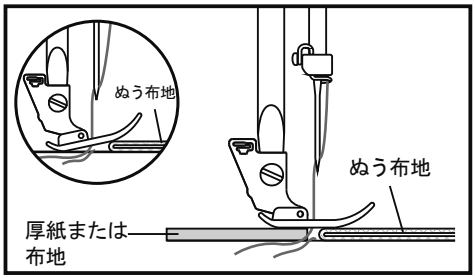
② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。

③ 押え上げレバーを上げ押えを上げます。

④ 針を軸にして布地を回し、布地をぬい方向にセットします。

⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

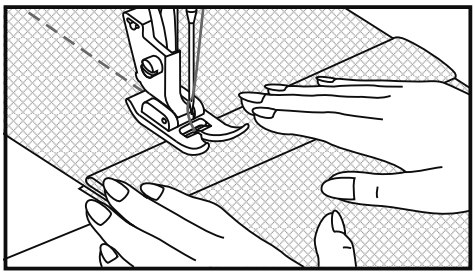
◆ 厚地のぬい始め



厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。

このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

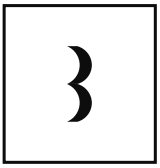
◆ 段ぬい

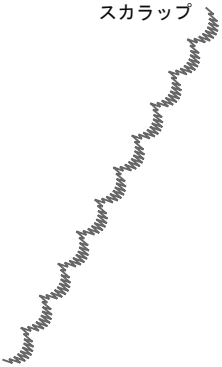


布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

◆ 飾りぬい

ジグザグ押え





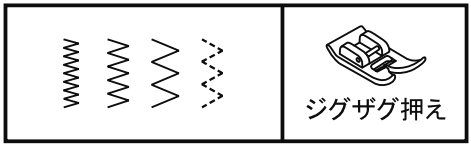
スカラップ

模様選択ダイヤルは″ ″にセットします。

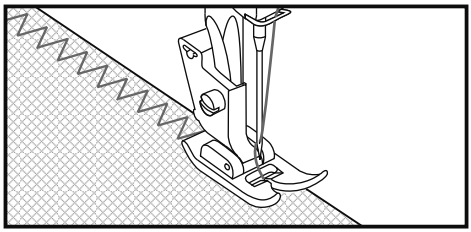
布を布はしから１㎝くらい残して、表からぬいます。糸を切らないように、外側の布をぬい目にそって切り落とします。

レースやフリルのはしなどの飾りにお使いください。

◆ ジグザグぬい、裁ち目かがり

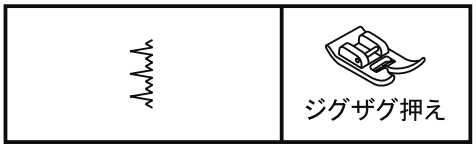


ジグザグぬいの糸調子は直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸が出るくらいが適当です。

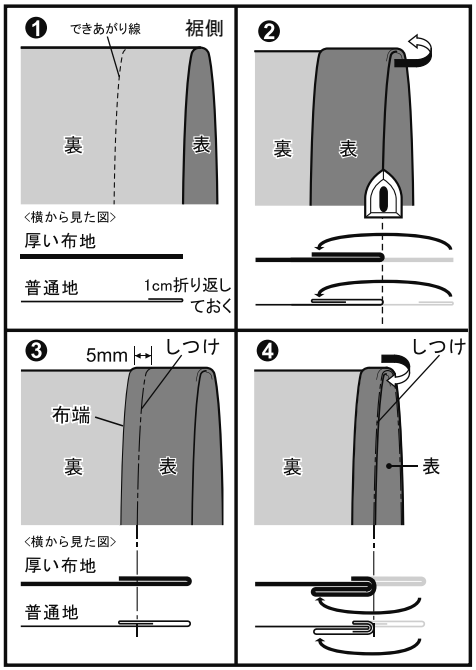


伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には、市販の接着芯を貼るときれいにぬえます。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）



スカートやズボンの裾を、次の手順でまつります。



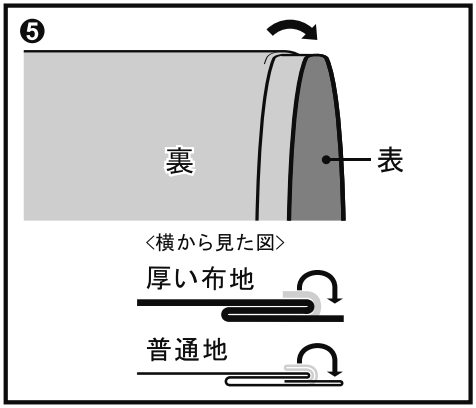
① 裾上げするスカートやズボンを裏返します。

② できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

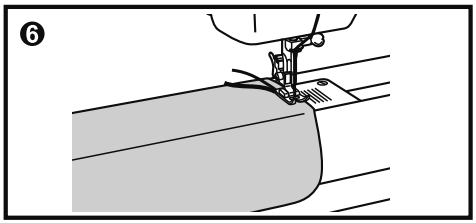
③ 布はしから約５㎜のところにチャコペンなどで印をつけ、しつけをします。

④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）

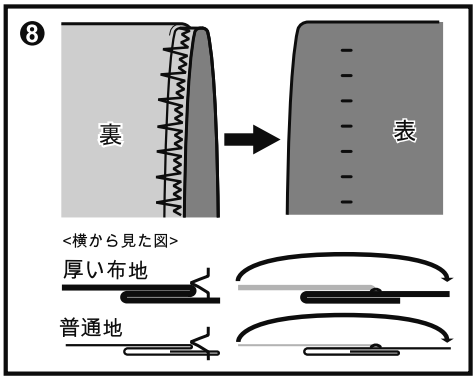


⑤ 布はしを開きます。



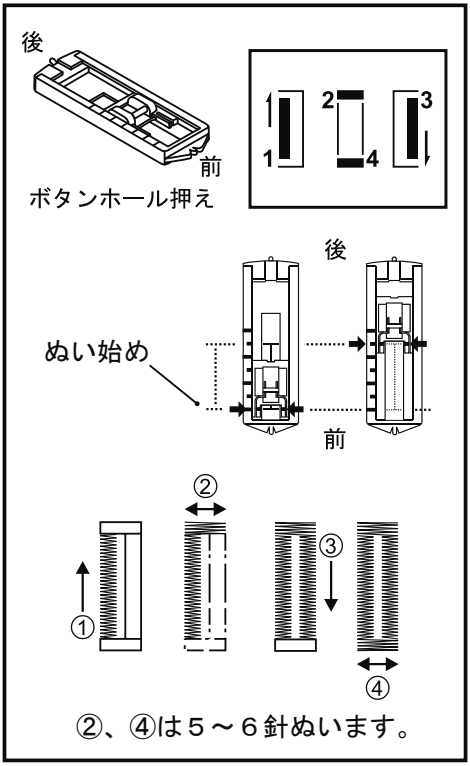
⑥ ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。

⑦ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。

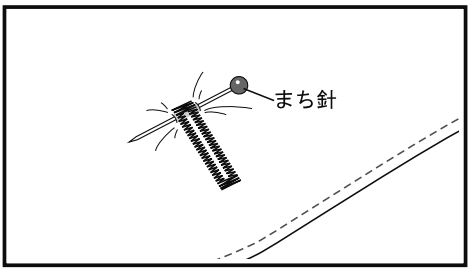


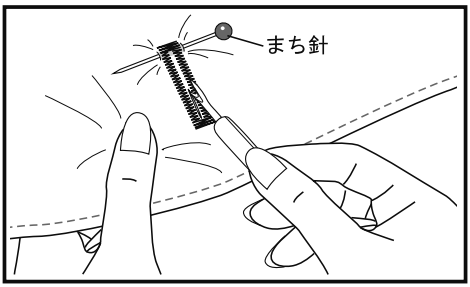
⑧ しつけをほどき、布地を表に返します。

◆ ボタンホールのぬい方



②、④は５～６針ぬいます。





準備

- ボタンホール押えに交換します。

  ボタンの直径＋厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとします。布にボタンホールのサイズを印します。
- ミシンに布をセットします。布に付けたボタンホールの印の一番下中心部分に押えの穴の中央を合わせて押えを下げ、押えの手前に隙間が空かない様にセットします。
- ４段階でボタンホールをぬいます。

  模様選択ダイヤルの図の①～④の順にダイヤルを合わせます。②と④は同じ動作になるので、押えをセットする上下の場所だけ変更してください。

  左図の①～④の順でぬいます。
- ぬい終わったら、付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。
- ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針を刺します。

  ※まち針は付属品ではありません。

⚠注意：ケガ防止のために

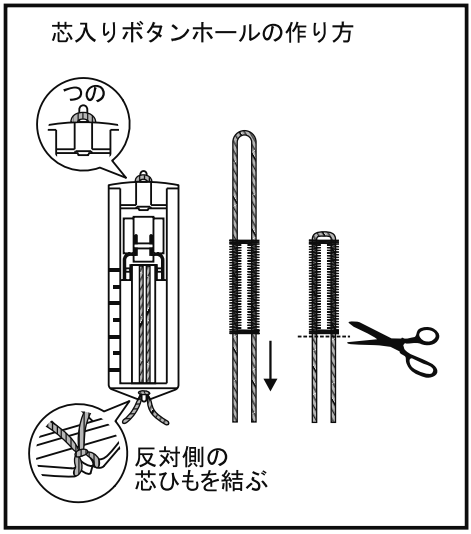
リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。

すべったときにケガをするおそれがあります。

ヒント

- 上糸の糸調子を少し弱くすると、きれいに仕上がります。
- 薄手の布および伸縮性のある布には、必ず接着芯を当てるようにしてください。

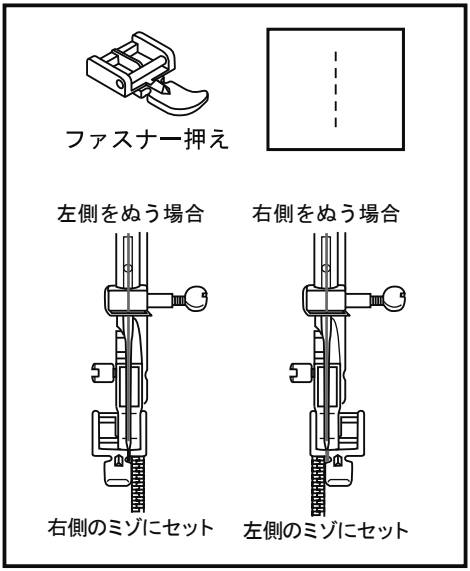
◆ ボタンホールのぬい方



芯入りボタンホールの作り方

- 伸びる布地にボタンホールをぬう時はボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるつのにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し前側のつのにはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができたら、左側の芯ひもを引いて、たるみをなくし、余分な糸を切ります。

◆ ファスナー付け

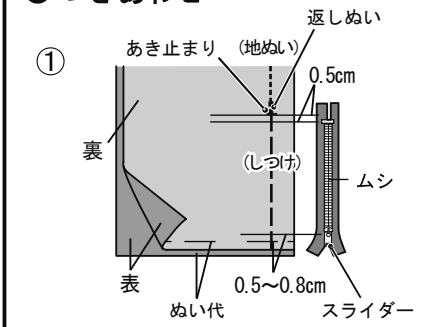


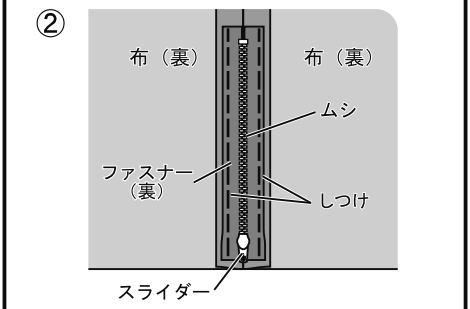
左のイラストを参照して、模様選択ダイヤルは、″┆″に セットします。

ファスナー押えは、ぬう側に合わせて、左右どちらかにセットします。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

●つきあわせ





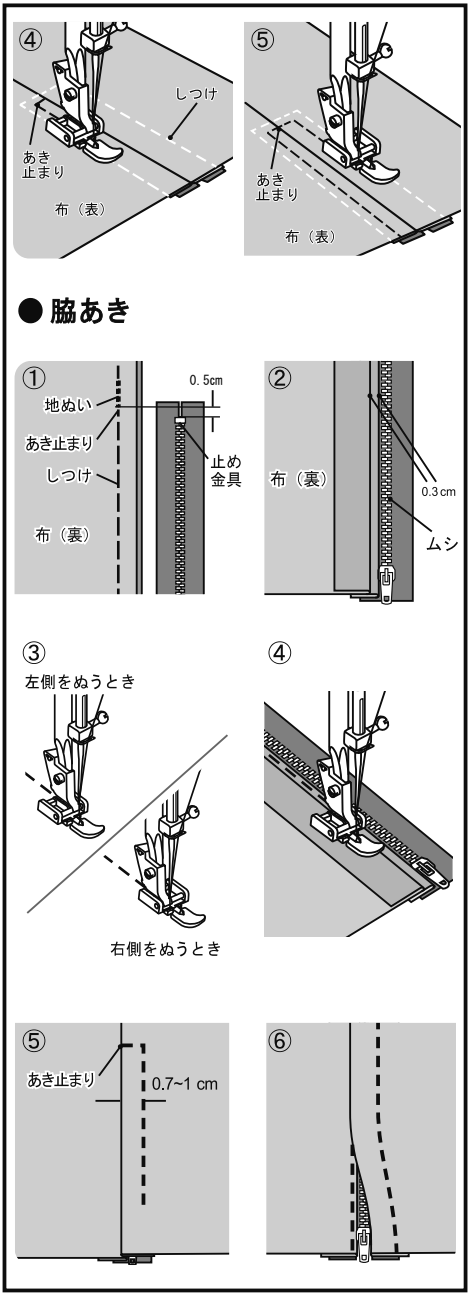
●つきあわせ

①中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

②ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

◆ ファスナー付け



④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。布の合わせ目から 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。右側も同様に 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

●脇あき

① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

② ぬい代をわり、下の布のぬい代を 0.3cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

③ ファスナー押えを取り付けます。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側は布の折り目から 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

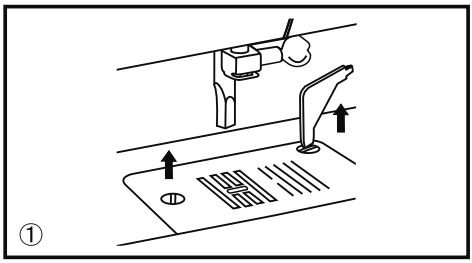
◆ ミシンのお手入れ

⚠注意：ケガ防止のために

部品の交換やお掃除の際には、必ずスイッチをオフにし、ミシンの電源プラグを抜いてください。

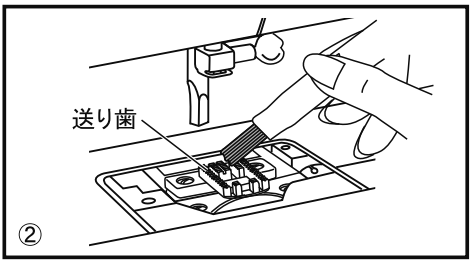
お手入れの仕方

押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えと、押えホルダーを取り外します。
はずみ車を回し、針を一番高い位置に上げ、針を取り外します。補助テーブルを取り外し、フリーアームの前にあるカマ開閉カバーを開きます。



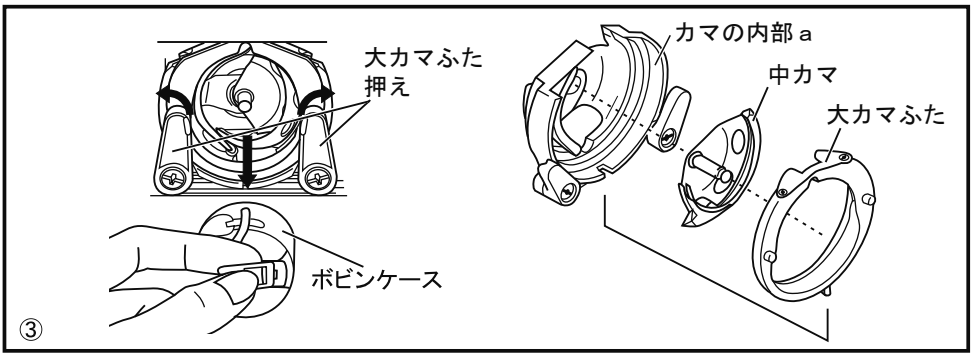
① 針板の取り外し方

付属品の三角ドライバーで針板の２本のネジをゆるめ、針板を取り外します。



② 送り歯の掃除

送り歯のゴミを、ブラシで掃除します。



③ ボビンケースを外し、大カマふた押えを左右に開き、大カマふたと中カマを外します。

ブラシで中カマと、カマの内部を掃除し、布でふきとります。注油は、カマの内部のａ部分に１，２滴落す様にします。組み付けは、外した時の逆の順序で組み付けます。

注意：針が下の位置にある場合には、中カマを取り外すことはできません。

：注油後は必ず試しぬいをしてください。

◆ ＬＥＤライトの交換

ミシンに装備されているＬＥＤライトは、非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ 困ったときには

問題	原因	解決方法
上糸が切れる	− ミシンの糸かけが間違っているとき。 − 上糸調子が強すぎるとき。 − 針に対して糸が太すぎるとき。 − 針の付け方が間違っているとき。 − 糸立棒に糸がからまっているとき。 − 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	− 上下糸をかけ直してください。 − 上糸調子を弱くしてください。（小さい数字） − 太い針に交換してください。 − 平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。 − 糸コマを外し、糸立棒にからまった糸を外してください。 − 針を交換してください。
ぬい目が飛ぶ	− ご使用の糸が古いとき。 −ボビンに糸が正しく巻かれていないとき。 − 糸かけが間違っているとき。 − 針の取り付け方が間違っているとき。 − 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 − 針のサイズが布に合わないとき。 − 押えの取り付け方が間違っているとき。	− 新しい糸をお使いください。 − 均等に綺麗に糸を巻いたボビンを使用してください。 − 上下糸をかけ直してください。 − 平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。 − 新しい針に交換してください。 − 糸と布に合う針に交換してください。 − 押えを正しく取り付けてください。
針が折れる	− 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 − 針の付け方が間違っているとき。	− 新しい針に交換してください。 − 平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
ぬえない	− 針のサイズが布に合わないとき。 − 目的の違う押えを使っているとき。 − 糸かけが間違っているとき。 − 針、布、糸の組み合わせが合っていないとき。	− 糸と布に合う針に交換してください。 − 正しい押えに交換してください。 − 糸かけを確認してください。イラストをご参照の上、上下糸をかけ直してください。 − 糸と布に合う針に交換してください。
ぬい目にギャザーが寄ったり、つれたりする	− 糸調子が合っていないとき。 − 布に対して針が太すぎるとき。 − ぬい目の長い直線を選択しているとき。 − 糸調子が強過ぎるとき。	− 糸調子を正しく合わせてください。 − 細めの針に交換してください。 − ぬい目の細かい直線に変更ください。 − 上糸調子をゆるめてください。（小さい数字）
ステッチが均等でない、送りが均等でない	− ご使用の糸が古いとき。 − 下糸のかけ方が間違っているとき。 − 布が引っ張られているとき。	− 新しい糸をお使いください。 − ボビンケースを取り外して、糸かけをし直してください。 − ぬいながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せてください。
ミシンの音が高い	− ミシンに注油が必要なとき。 − カマまたは針棒に汚れやオイルが付着しているとき。 − ミシン用オイルを使用していないとき。	− 説明書にしたがって注油してください。 − 説明書にしたがってカマおよび送り歯を掃除して下さい。 − 注油にはミシン用のオイルをお使いください。
ミシンが動かない	− 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 − 糸がカマに絡まっているとき。	− 新しい針に交換してください。 − 上糸およびボビンケースを取り外して、はずみ車を手で前後に回し、絡まった糸を外して下さい。その後、説明書にしたがって掃除、注油をしてください。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から１年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常８年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。

   ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

   イ．保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
   ロ．浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
   ハ．ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
   ニ．ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
   ホ．職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

１６０年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

株式会社ハッピージャパン
ミ シ ン 営 業 部
〒110-0016　東京都台東区台東２丁目９番５号
電話　03-3837-1865
（本社）〒990-2251　山形県山形市立谷川３丁目3515

021MAC0401(JP)